



第 34 号
発行 武義高等学校 同窓会
題 字 藤田多美 (高21回)

梅は 霜雪を 経て 清香を 発す
うま ず おく せ ず たく ま しく



同窓会会頭 土本 恭正 (高28回)

昨年は武義高校一〇〇周年に際しまして同窓会の皆様方には多大なるご寄付を頂戴しまして誠にありがとうございました。コロナ禍にもかかわらずおおよそ一五〇〇万円もの金額が皆様より寄せられ、コロナ対応ということでもかなりの修正は余儀なくされましたが、おかげをもちまして予定していましたイベント、記念事業ができました。なにごとコロナという見えな未知の敵との戦いの中、すべてが手探りで準備。それも一年延期したことにより二年に渡つての活動でした。実行委員のメンバーが本当に頑張つてくれました。また皆様方には何かと不手際などあったかと存じま



創立100周年式典

すが、感謝を申し上げます。一つ残念なのが生徒たちを巻き込んでの事業がやむなく縮小されて生徒たちが参加できなかったことや、本当なら一〇〇周年の主役となる一昨年の最上級生が昨年の三月で卒業してしまつたことです。一〇〇周年に立ち会えることができず卒業をしましていささや残念であつたかと思ひます。ワクチン接種もすすみ年々も変わり様々なイベントが感染対策の元開催されつつありま



全校生徒は教室でオンライン参加

として動きを止めることなく活動をしたいと考えます。一〇〇周年という大きな節目が終わり、一一〇年、一二〇年へと武義高校の発展を願わずにはいられません。武義高校の生徒たちは様々なボランティアを通して地域に根差し、この地域になくてはならない存在として活躍してくれています。古城会会員の皆様のご支援をよろしくお祈りします。

創立百周年 記念事業を終えて
校長 瀧下 博幸

同窓会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響により、記念事業が延期になっておりましたが、記念式典は十月十六日(出)に天候にも恵まれ、盛大に執り行うことができました。感染防止のため、全校生徒は教室にてオンラインでの出席となりましたが、教室の中でも厳粛な雰囲気です。スクリーンに映る式典の様子を真剣に見ていくことができました。また、記念公演では、本校卒業生の大家昌治さん率いるバンド「うだつ」により美濃をイメージした曲を演奏、式典を盛り上げていただきました。素晴らしい一日になりました。この度の事業では多くの方々からのご寄付により、正門周辺及び梅華塾空調設備の整備等をしていただきました。お陰をもちまして生徒たちは素晴らしい

環境の中で、勉強や部活動に励むことができている。これも土本恭正会頭様をはじめ、記念事業実行委員の方々、同窓生の皆様、地域の方々のご努力とご支援の賜物と深く感謝をしております。令和三年度も学校現場は一年間を通して、感染予防をしながらの教育活動となりました。しかし今年度は教育のICT元年と言われる中、岐阜県は全国の中でもICT機器の整備が進んでおり、第五波による夏休み明けの休校でのオンライン授業、生徒会の立会演説や表彰伝達式など、ICT機器を有効活用することができました。また、昨年度末より生徒には一人一台のタブレットが配備されており、活用が本格的に始まったところで、本校の教員は、日頃の授業においても積極的に活用し生徒の学習支援に努めております。部活動等においては、水泳部が二〇〇mバタフライ、陸上部が四〇〇m、走高跳、やり投げで東海高校総体に進出、硬式野球部は全国高等学校野球選手権岐阜大会で大逆転による初戦突破、美術部は県青少年美術展デザイン部門で最優秀賞、家庭クラブは県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会で最優秀賞、インターアクトクラブは中・東濃地区インターアクト協議会のホスト校として企画運営など、ど



授業風景

の部も熱心に取り組み活躍しております。今年度の一〇〇周年記念事業を節目に、次の新しい時代に向けて、社会で活躍する人材を育成するよう教職員一同、より一層取り組んでいきます。同窓生の皆様には今後も引き続きご支援をよろしくお祈り申し上げます。

東京古城会の近況

東京古城会 会長 野倉 学 (高22回)

令和二年から始まった新型コロナウィルスのパンデミックは三年目を迎えています。昨年は年初のアルファ株から始まりデルタ株で東京オリンピックが無観客となった第五波と続き、秋

卒業生だより

高校二期生 中島 睦 男

まずは母校岐阜県立武義高校創立一〇〇周年記念式典を無事盛大に済ませられ、ご同慶に堪えません。校長先生を始め職員の皆様、関係する皆様方のご努



武義高最後の和服卒業生・私です



力を厚く感謝する次第です。私も何とか名古屋古城会会長の山口氏のお供をして参席せねばならぬ処、老齢の為欠席し申し訳なく何卒ご容赦の程お願い申し上げます。更には私如き者まで結構な表彰をお授け賜り大変に恐縮しております。無くなつていた名古屋古城会の再建・復活には二年間取り組

み、一四八名の会員を集め、平成二十年十一月一日第一回の総会を開催しました。本校からも川嶋会頭、校長先生、そのほか何人ものご来賓を仰げました事は今振り返るとよくやれたものと自負しております。昭和六年生まれの私は今年九十歳を数え卒業を迎えまして。卒業は人生の終わりかとい

中学一五回卒 山田悦二様のご家族より 写真を預かりました。

この写真は、昭和十四年三月五日、関市安桜小学校卒業生九名の武義中学校卒業記念写真です。戴帽、学生服、下駄履きの当時の学生の姿が写っています。ご本人は右から三人目の眼鏡をかけた方です。小学校卒業生は百十名で一、



二組各五十五名、当時の武義中学校定員は百二十名で、小学校から十五名受験し十三名合格、無事卒業は九名だったそうです。また、当時の経済状況は、授業料一か月三円五十銭、校友会費五十銭、修学旅行積立金五十銭、名鉄美濃町線定期代一か月二円十六銭だったそうです。大切な写真と貴重な資料を紹介していただきありがとうございます。(事務局)

※最近の学校生活の様子が本校のホームページに掲載されています。「武義高校」で検索してご覧ください。

